のびる芽

健やかで うるわしく 和やかで よく働く 自力で 成しとげる

令和8年 10月 9日
西脇市立黒田庄中学校広報
臨 時 号

TEL 28-2072 FAX 28-4123

令和８年度全国学力・学習状況調査結果の概要及び今後の取組

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。今回の調査結果を今後の教育活動の改善に生かすとともに、学校と家庭が連携して生徒の成長を支える機会としたいと考えております。引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

１．調査の目的

① 全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証し、改善を図る。
② 学校における生徒への学習指導の充実や、学習状況の改善等に役立てる。
③ 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査の概要（中学校調査）

対象 … 中学校第３学年　36 名（3 名欠席）
内容 … 教科に関する調査（国語･数学）【4 月 23 日 実施】
教科に関する CBT 調査（英語）【5 月 1 日 実施】
質問 CBT 調査（生徒質問）　【4 月 22 日 実施】
※CBT とは、Computer Based Testing の略、1 人 1 台端末で回答・採点する。

３．学力調査から見える成果と課題及び改善の方向性

国 語

【成果と課題】
・言語事項や文法等の基本的な国語知識は定着している。
・領域別では「読むこと」に課題がみられ、文章構造の把握や必要な情報の要約・解釈する力が弱い。また、話し合いを通して考えをまとめたり、自分の考えを文章で表現したりする力にも課題がみられた。
・問題形式別では、「記述式」の正答率が低く、無回答率も高い。
・全体の正答率は全国平均をやや下回った。

【改善の方向性】
・教科書教材以外に短い文章の読解・要約に継続的に取り組む。
・一方的に自分の考えを主張するのではなく、お互いの考えを捉える中で 共通点、相違点などを踏まえて話し合いができるような「ミニディベート」などの学習活動を設定する。
・授業の振り返りや学習活動の中で、複数の条件を踏まえて記述する機会を増やす。

数 学

【成果と課題】
・領域別の正答率を全国平均と比較したところ、「関数」は大きく上回り、「数と式」は同程度、「図形」はやや下回り、「データの活用」については大きく下回った。
・観点別にみると、「知識・技能」は全国平均と同程度であったが、「思考・判断・表現」はやや課題が見られた。特に、数学的な表現を用いた説明問題や図形の性質の証明問題は正答率が低く、無回答も多く見られた。
・全体の正答率は全国平均をやや下回った。

【改善の方向性】
・数学の基礎基本となる用語や定義の定着を図る。特に、データの活用の分野については繰り返し復習を行う。
・ワークや新研究、※ドリルパークを用いて、基礎的な計算の内容を中心とした基本の定着を進める。
・授業が知識と技能の習得に偏らないように、対話的で協働的な学びを実践し、数学的な表現を用いて説明したり、証明したりする機会を増やす。

※ドリルパーク … 生徒の基礎学力の定着から思考力・判断力・表現力の育成を支援するデジタル教材。AI が学習者の理解度や進捗を分析、個別最適化された問題を自動で出題し、効率的かつ効果的な学習を可能にする。本校では昨年度より毎週水曜日の 6 限（25 分間）に設定し、全校生が取り組んでいる。

英 語



【成果と課題】
・比較的良好な結果が得られたのは、アナウンスを正確に聞きとる問題や、体験したことに基づく作文であった。答えに直結しやすい単純な内容は高い正答率に繋がり、また一度単元で同様に書き記したことのある経験が応用できていたと考えられる。
・正答率の低い問題からは、聞くこと・読むこと・書くことの各技能において、話し手の意図を聞き取ること、登場人物の心情の変化を読み取ること、テーマについて自分の考えや理由を書くことなど、想像力や思考力を必要とする問いへの対応に課題がみられた。
・全体の正答率は全国平均をやや下回った。

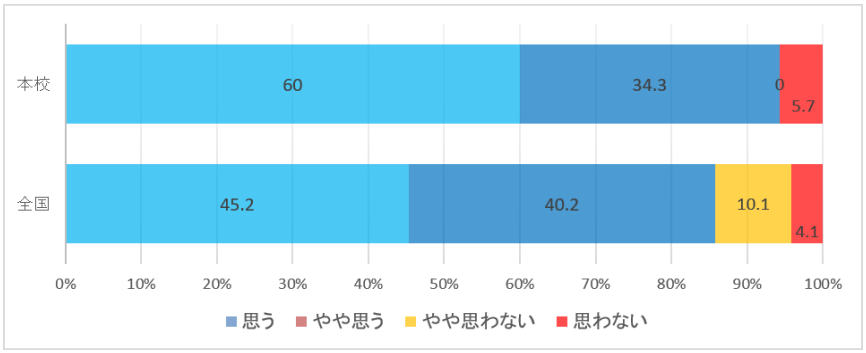
【改善の方向性】
・物語の登場人物の心情を想像したり、心の移り変わりに着目したりと、イメージしながら文章を読み取る力を涵養する。
・英語の知識そのものより、知識を活用してパラフレーズし要旨を捉えたり、自分の考えをもとに表現したりする機会を増やす。
・テーマに沿って立案し、予測・結果・考察までをまとめ、教科書にある語句を活用しながら表現したり、やり取りしたりする力を磨く。

3 教科を通して共通して見える課題は、知識そのものは概ね定着しているが、知識を活用して説明する力、記述問題・表現問題に弱さが見られます。また、全国と比較すると上位層の割合がやや少ない傾向も見られました。したがって学校全体としては、「自分の考えを根拠とともに説明する力の育成」を共通研究テーマとして位置づけることが、すべての改善につながると考えています。

生徒質問紙　黒田庄中学校生徒の強みと課題、今後の取組

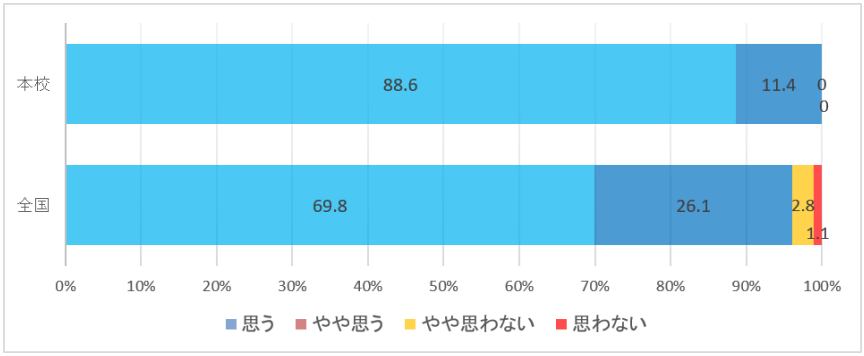
■ 黒田庄中学校生徒の強み ■

「学校が楽しい！」　「学校へ行くのが楽しい」(思う・やや思う)と答えた生徒は 94.3%でした。



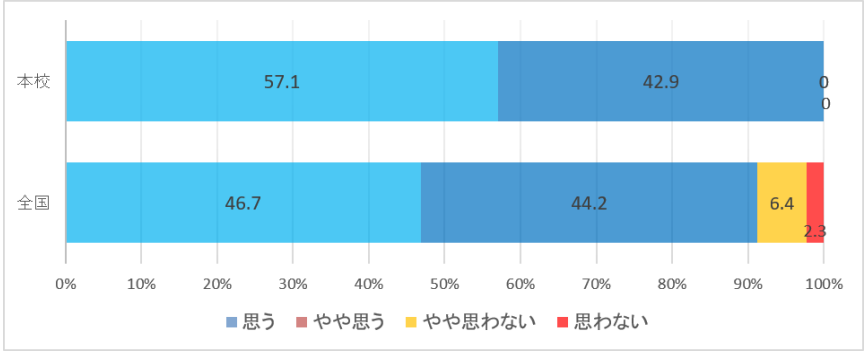


「人の役に立ちたい！」　「人の役に立つ人間になりたい」(思う・やや思う)と答えた生徒は 100%でした。思いやりや社会に貢献しようとする気持ちが育っています。





「先生との信頼関係」　「先生は自分のよいところを認めてくれている」(思う・やや思う)と答えた生徒は 100%でした。引き続き安心して学べる環境づくりに努めます。

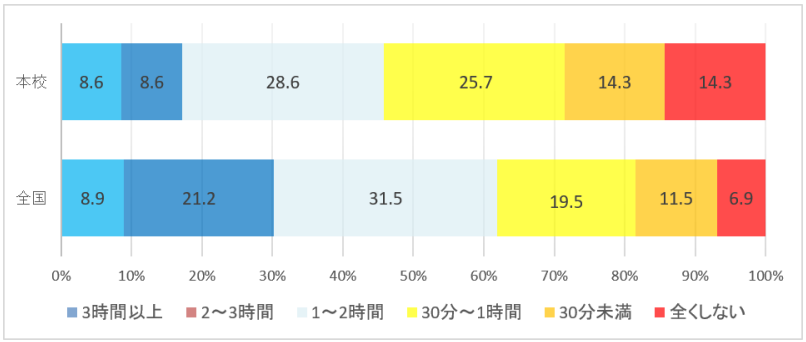




■ 今後さらに伸ばしたいこと ■

家庭学習の充実

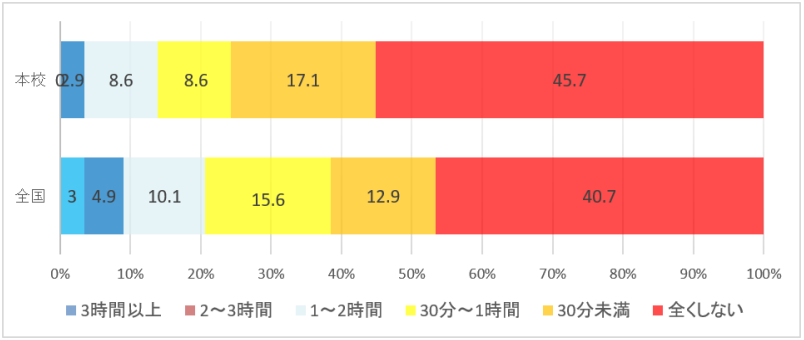
家庭学習の時間には改善の余地が見られます。昨年度から取り組んでいる
ドリルパークや反転学習の推奨、家庭学習の定着に努めたいと考えています。





読書習慣の定着

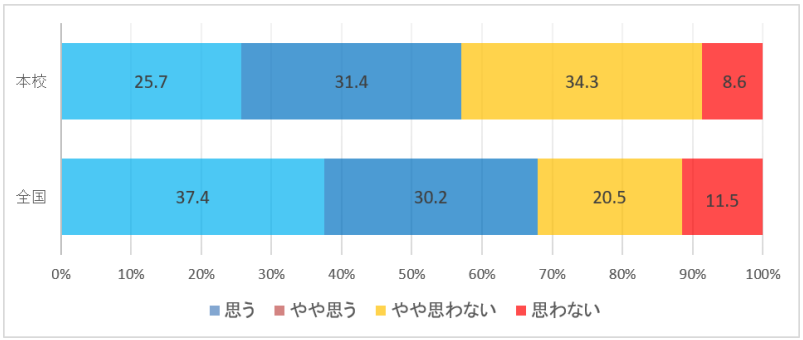
読書に親しむ機会をさらに増やしていく必要があります。「朝読」「ブックスマイル」
などの読書活動を通して、本に親しむ機会の充実を、さらに図っていきます。





将来の夢や目標

将来の夢や目標について、さらに考えを深める余地があります。キャリア教育を
充実させ、自分の将来を考え、主体的に進路を選択できる力を育てていきます。





今回の結果から、本校生徒の学校生活への満足度の高さや思いやりの心、先生との信頼関係の深さがうかがえました。一方で、学習習慣や読書習慣の定着、将来を見据えた目標づくりについては、さらに充実を図る必要があります。

今後も学校と家庭が連携しながら、一人一人の可能性を伸ばす教育活動を推進してまいります。